

山梨県スポーツ指導者協議会会報

第 二 二 号

全国スポーツ指導連絡会議報告

会長 一 木 昭 男

平成4年12月10・11日に日体協において、都道府県代表者と競技団体の代表者で開催された。

最初に、各ブロックで開催された会議内容が報告された。

共通テーマとして、指導者の活用と指導者育成講習会及び研修会の進め方が報告された。

どのブロックも指導員の活用が不十分で行政的に働きかけて欲しいと言う意見が強く出されていた。

特別講演は、柔道の吉村和郎氏がバルセロナオリンピック金メダリストの古賀・吉田選手の指導や

大会時の苦労話が紹介された。概要はスポーツジャーナル一五六号に記載されているので省略する。

問題点になった事について上げると、都道府県分科会からの報告からは

① 資料に競技団体からの将来の指導者養成人数（C級陸上二三、五〇〇人、サッカー一〇、〇〇〇人、スキー一五、〇〇〇人）等が報告されたが、その人数を算出した根拠が不明で、再度各都道府県の競技団体と相談して欲しいという要望が出された。

② スポーツ指導者の研修義務制度は、各競技団体で不統一であるので、各県は指導者手帳などを準備して、研修のつどチェックできるような工夫をする必要があるのではないか。（指導者手帳を使っている例として東京・長野）

③ 少年スポーツ指導者が新しく認定され、4月から発足するので、早急に具体的に内容等を発表して欲しい。（従来のスポーツ少年団育成とは異なり、他の少年スポーツ団体の指導者も含まれる。）

認定競技団体分科会からの報告では

① 水泳連盟はスポーツ指導者の研修として水泳連盟の研修を義務付けている。

② 卓球・ソフトボールの競技団体は、国体のような全国的大会に参加する指導者は、スポーツ指導者の有資格者のみを許可するように進めている。

他の競技団体もこれと同様の方

向に歩調を合わせて進む予定である。

未認定競技団体からの報告

① 指導者の必要な人数は早急に、各都道府県の競技団体と相談して決定する予定である。

② 未法人化の競技団体は文部大臣の認定を受けられないので、早急に法人化を進める。

次期関東ブロック会議は、7月3・4日埼玉県飯能市で開催。幹事酒井（埼玉）日野（群馬）

スポーツ指導者協議会報告記

副会長 芝口 尾 重 度 廣

関東ブロック会議は、①スポーツ指導と各競技団体との連携、②スポーツ指導者と行政施策との関連の二つのテーマで7月2日、3

日の2日間東京青山会館にて開催された。

日体協樽味事務局長より、日体協の変遷、特にJOC分離独立後、国民スポーツ振興の為組織拡大を図り現在一〇一の団体を擁するに至った。その目的完遂の為に公認指導者の養成が急務であることが強調された。

また、都体協濱中専務理事からは、日体協は皆んなでスポーツを、と云って皆んなが健康で暮らせるように、と考えている。その為にも指導者養成とその質の向上をはかることこそ重要であるとの会議への期待が述べられた。

引続いて、太田利彦岩手大教授により「スポーツ指導者の養成と活用」—ある地方の実態から—と題して基調講演が行われた。

太田教授は、かつては、競技力

向上・選手強化の為の指導者であった。現在はスポーツが多面化し、はじめてスポーツに出会う人々に対応できる指導者の養成が重要な課題となってきた。しかし、資格を取得しても活用がうまくいかない。地方のスポーツを担当するのは教育委員会、行政の仕事と体協の仕事が掛け持っている。行政の仕事が優先され体協の仕事は忘れられることが多い。また、体指とスポ指は車の両輪と言われるが教員任命の体指が重要視され、苦勞してとった公認資格は行政サイドからは、「それなりに」ということになってしまふ。地方においては行政サイドからの指導が有効であり、行政を積極的に動かすことが活用の面では大きな効果をもたらす。体指任命の条件としてスポ資格を位置づけているところもあ

り、ここに文部省認定という具体的効果が現れ始めている。体協側からの行政へのより積極的な働きかけの必要性が指摘された。

基調講演等を中心にテーマに関する質疑応答が行われ、①については、各種目団体においてそれぞれの技能レベルを明確にもっている、公認資格の必要性を認めないところもありスポ指協との連携が全くうまくいかない。これについては、競技団体と指導者の育成事業とのかみ合いを考えていかなければならないが、監督はC級指導員の資格を持たなければベンチに入れないという競技も出てきたことが報告された。また、各資格に部会をつくって連絡調整をとる必要性も強調された。②については基調講演の中で、余り活用されていないとその実態が報告され

たが、それでは何の為の資格かと疑問が出された。これについて、山梨の一木会長より、6月富山での野外活動研修会のおり、文部省の係官の話として、平成6年頃次官通達の形で、公共スポーツ施設、団体、各種協議会には有資格者を位置付ける方向で検討中とのことである。また、体指については行政のベースでありスポーツ振興に係る法改正をしなければならぬのではとの発言があった。今回は現実問題がテーマであり大いに学ぶ機会となった。

なお、本県スポ指協も旧組織から脱皮し公認の有資格者を主体に平成2年2月新たな歩みを始めた。指導者に求められるのはより高い資質である。質の向上を目指す自己研鑽の場としてこの組織を積極的に活用してもらいたい。

平成4年度公認スポーツ指導者海外研修に参加し

公認スポーツプログラマー

理事 向山 直 貞 恒

はじめに

この度、海外研修団の一員として参加する機会を与えていただいた関係各位に心から感謝申し上げます。古代にふれ、現代にふれる大変有意義な23日間の研修であった。

イギリス、ポルトガル、ギリシアを訪問したが、ここではおもに、ギリシアを報告する。

最後の訪問国。アテネから三七0kmのオリンピックの村、森林に覆われたクロノスの丘の麓に静かに横たわるオリンピックの遺跡、ここがゼウスの神域であり古代オリンピック発祥の地であると思うと、何か神秘的な感動におそわれ

よくぞ発掘したと感心させられた。古代人は神に健康で強靱な身体を捧ぐべくトレーニングをした。オリンピックゲームに出場するため、ギムシナオンで特別の期間心身の鍛練をしたという。それは、ギリシアが理想とした全人的教育に根ざしたものであり、知・徳・体の調和をはかる人間形成を目指した古代ギリシアの思想であり、オリンピックの原点であろう。

NOCレクチャーの中で、近代オリンピックは、商業化、巨大化、ドーピング、プロ・アマの問題等々、また、一九九六年アテネオリンピックの誘致も金で破れ非常に残念であると深く傷ついていた。終りに

この研修で各国の歴史、社会的背景、国情等によってスポーツのとらえ方、考え方、振興策等は異なっても、スポーツ文化の重要性

は各国共通であるとの確信を得た。視野は常に広く向けながら、日本を思い、地域社会を考え、自分に出来る身近な事から実践していきたいと思う。

最後に佐々木団長、向佐総務、団員各位に心から感謝申し上げ報告にかえたいと思う。

山梨県スポーツ指導者連絡会議

(研修会)に参加して

C級スポーツ指導員(水泳)

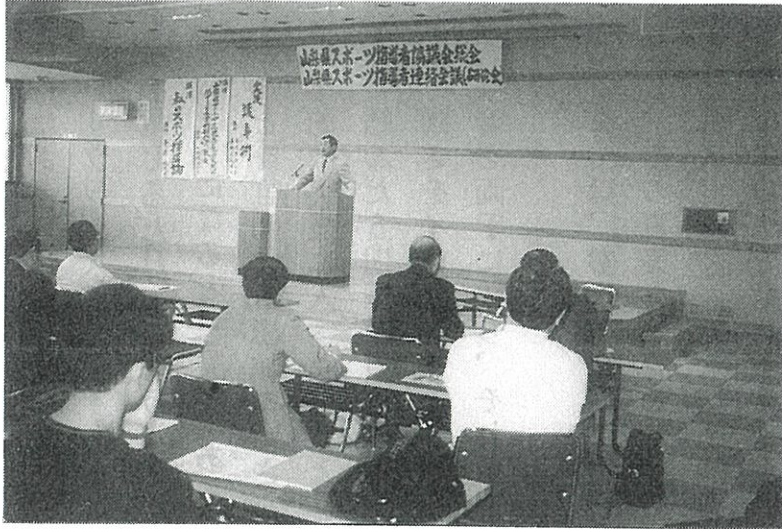
川口静加

各種公認スポーツ指導員の相互の情報交換や、資質向上と、活動増進を図ることを目的として、県立勤労青年センター内の多目的ホールを利用しての、山梨県スポーツ指導者協議会の研修会が平成4年5月15日(日)に多数の参加者

のもとに開催されました。

まず始めに、「私のスポーツ指導論」と題して現在も活躍中であり全国的にも有名なシャトレゼのハンドボール部の監督をなされている、李寿昶先生に講演をいただきました。地域の中に溶け込み毎日の練習での指導のポイント、練習の中での問題点にもふれてお話しくださいました。

実技講習会におきましては、若尾重廣先生、鷹野直敬先生の指導のもとにおいて、「護身術」の手ほどきをしていただきました。相手の力を利用しつつ行なうので、思ったよりは、力もいらずに身を守る事ができるものなのだ、と、身をもって体験することができました。2人1組でペアを作り、臨機応変な対応の仕方を教えていただき、普段の生活の中でいざと言うときに、身を守る為に役立つの



ではないかと思いつつ皆んなと夢中で体を動かしてしまいました。この、研修会に参加して、目的を全うし、公認スポーツ指導員の皆様方がそれぞれの分野で活躍されることを期待したいと思います。

「気功法を取り入れた

スポーツ指導」に参加して

B級コーチ（バレーボール）
理事 二二 廿井 勇

平成5年2月20日、スポーツ会館研修室において、気丹超力会良指師・真圧心療法士の相澤功氏をお招きして、表題の実技講習会が開催された。相澤氏は自らプレーヤーとしての、また、インターハイ・国体等数多くの出場経験を持つ指導者としての実績の持ち主である。教員時代体調を崩し入退院を繰り返すが回復せず、平成2年に退院し、呼吸法、給水法にて完治し現在に至っている。

講師は前述した自分の経験を含みながら、「生きるとは何か」を発見し気功に進んだ経緯と、気功の意義、そして気功法を取り入れ

完全に講師の世界へ引き込む話術で講演してくださった。

「気」とは目に見えないが働きのある「天・地・人・他すべてのもの」を満たす宇宙エネルギーのことである。「気功」とは、この「気」をちょっとした動作や呼吸法、やさしい瞑想の方法を使って上手に体内に入れ、呼吸を整え、心を清浄にし、いのちを養っていく養生の道であるとの説明の上、さっそく呼吸法の実践に入った。体内を空っぽにしてから、大きく吸うと、「気」を体内に取り入れることができる。このため腹式呼吸をする。

○「天の気」を百会（頭頂にある）から取り入れる。

○「地に気」を湧泉（土踏まずにある）から取り入れる。

○鼻から空気を吸いながら、素晴らしいイメージを取り入れる。

○そしてそのイメージを丹田（下腹部にある）に蓄積する。

これでリラックスが完了。あとは自分を信じるだけで、思うことができるようになるという訳である。このことを証明する意味で、さらに具体的な実技に入った。

○糸で結んだ5円玉を目の前につるし、動きをイメージする。

○割り箸を両手に持ち、それを紙で切る

ここまでは、参加者全員が自ら体験し、その事実を確認した。そしてその後、講師の様々な超能力のような気功法を見せられ、その力を信ぜざるを得なかった。

こうして実技は終了した。我々は「できる」と信じ、気持ちを一つにまとめると、それは必ずや「できる」ものだということをおい知らされたと同時に、今後のスポーツ指導の場面で今回の成果を

十分に生かしていかなければならないと痛感させられた、有意義な講習会であった。



地域スポーツクラブの発展を

B級スポーツ指導員（卓球）

理事 雨宮白愛友子

昭和56年関東レディース卓球大会が本県で開かれたのを機に、甲府市卓球協会の呼びかけで、同好

者6名が集まって「甲府芙蓉クラブ」が発足しました。

当時、県内には大会に出場できるようなチームは数えるくらいで、予選もなく県代表チームとしてエントリーされ大会に望みました。結果は、県外の選手のすばらしいプレーに、チームワークに、ただ圧倒され茫然とその日を終えたのです。

ちょうどその頃、地域スポーツ指導者の資格を取得したばかりの私は、これを機会にレディースの卓球競技における普及、指導に努力してみようと決心しました。

それから12年、甲府芙蓉クラブは大きく成長しました。会員も26名に増え、緑が丘体育館での定期活動日には、経験者が初心者の方の技術指導の時間をとり、底辺拡大と技術向上にも力を入れ、心地良い汗を流すことだけで満足していた

会員も、ゲームの楽しさ、難しさを知り積極的に日頃の成果を試すようにもなってきました

経験者においては、県大会、関東大会に参加は勿論、昭和63年と平成4年の全国大会にはいずれも優秀チーム賞を受賞し、練習にも一段と励みができました。

このたび平成4年度の地域クラブ活動助成事業の指定クラブに推薦され活動していくなかで改めていくつかの感動を経験しました。

会員は32歳から71歳と年齢的にも技術的にも幅広く差があります。指導の中ではいくつかの問題点もありました。でもこういう事業に推薦されたということについてクラブ全員が喜び、チームとしての自覚がめばえ、活動日における練習も活発化しました。また交流会や大会等への参加者が増え、人の輪を広げるきっかけにもなりました。

た。クラブの内容も充実し、活動計画、行事への参加についても整理され、特に会員が目標、練習計画等に意欲的になりました。初心者も体力づくりと活動に参加することによる仲間づくりとで楽しみを知り継続しているということです。

こうして主婦がクラブを長続きさせることには、絶対に家庭の理解と協力が必要です。そのためにもスポーツをすることの素晴らしさを家庭に反映させ、また勝負だけにこだわらず、卓球を通して会員相互の親睦と健康と安らぎをもたらす楽しいクラブであるよう心がけていきたいと思えます。

生涯教育としての

スポーツ活動をめざして

公認コーチ（空手道）

幹事村上 時彦

昭和60年にスポーツ少年達を主体に韮崎スポーツ空手道クラブが設立され、以来現在まで週2回、主に夜間の余暇に部員、指導者と共に父母の皆様の協力のもと、日々練習に励んでおります。

毎年正月、鏡開きを機に一年の目標を決め、個々の抱負を発表して新たな気持ちで練習を開始している。

練習場所は主として小学校、市の体育館で、平均20名の部員と3名の指導者のもと練習を行なっている。練習対象者の大半が少年の為、心身の鍛練を主に技術能力の向上を図っている。指導者の一名

体型の部で優勝しており、少年たちの目標も彼の後に続くことである。中でも高学年者は、会派、県大会等での優勝を目指して競技指向が強く、練習の熱意も旺盛である。

また一方父母たちも、今年から練習の輪に入り親子共々練習に汗を流している。

現在スポーツを行なっている人々は相対的に競技指向が強く、勝利を目指して努力を傾注しているが、人生において今まで続けてきたスポーツを通して、勝つことから楽しむことへ目的転換をはかり、健康な精神の育成を図ることが非常に重要であると思う。

指導者には、生涯スポーツの為の環境作りと指導法の研究等、資質・能力が求められている。老若男女が生涯スポーツと関わり合っていく場合、身体能力の異なった

人達が指導対象となるわけであり、従前通りの画一的指導法では目的の達成は不可能となる。かつて行なってきた既定概念にとらわれることなく、他スポーツの良き面を取り入れる等、漸進的な工夫をこらし、指導者も部員と共に生涯学習を推進していかなければならないものと思ひ、実行に心掛けていく次第である。

地域スポーツクラブ活動助成事業対象スポーツ指導員となって、数多いスポーツクラブの指導員の中から選ばれ助成を受けたことに深く感謝している。この機を有効に活用する為に今後も生涯教育としてのスポーツ活動を目指し指導に努力して行きたい。

平成4年度事業報告

○4月23日(木) 幹事会

東京都岸記念体育館にて開催

一木会長出席

○5月15日(日) 第1回理事会

総会

○5月15日(日) 研修会

私のスポーツ指導論

講師 李 寿昶先生

○7月3日(木) ～4日(金)

全国スポーツ指導者連絡会議

関東地区ブロック会議

東京都青山会館にて開催

○12月10日(木) ～11日(金)

全国スポーツ指導者連絡会議

東京都岸記念体育館にて開催

○12月22日(火) 第2回理事会

甲府市緑が丘レストハウス

にて開催

○平成5年2月20日(土)

実技講習会



「気功法を取り入れた
スポーツ指導」
講師 相澤 功先生
○3月31日(水) 会報発刊

平成4年度収支決算見込

☆収入の部

(単位：円)

科目	予 算 額			収入済額	増△減額	説 明
	当 初	補正	計			
補助金	100,000	0	100,000	100,000	0	山梨県体育協会より
会 費	122,000	0	122,000	284,000	162,000	2,000×142名
雑収入	1,000	0	1,000	16,652	15,652	預金利子 一本会長 野沢専務
繰越金	152,511	0	152,511	152,511	0	
合 計	375,511	0	375,511	553,163	177,652	

☆支出の部

(単位：円)

科目	予 算 額			支出済額	残 額	説 明
	当 初	補正	計			
旅 費	152,500	0	152,500	64,114	88,386	役員旅費
交 際 費	10,000	0	10,000	0	10,000	
消耗品費	3,011	0	3,011	2,925	86	K B用紙他
食糧費	2,0000	0	20,000	19,600	400	会議食事代
印刷製本費	7,0000	0	70,000	48,410	21,590	会報印刷
役務費	120,000	0	120,000	98,646	21,354	名簿、会報郵送
合 計	375,511	0	375,511	233,695	141,816	

収入済額 553,163円
 支出済額 233,695円
 差引残額 319,468円

お知らせ

下記についての詳しい問い合わせは、山梨県スポーツ指導者協議会事務局まで。

〒400

甲府市緑が丘2-8-2

(財)山梨県体育協会内

山梨県スポーツ指導者協議会

☎0552-53-1906

平成5年度日本体育協会公認

C級スポーツ指導員養成講習会

本年度は、テニス・バレーボール・ラグビー競技において実施される予定であります。現在、公認C級スポーツ指導員かトレーナーの有資格者は、共通科目40時間が免除となりますので、専門科目の40時間を受講することにより希望

する競技の資格を取得することができます。

平成4年度日本体育協会公認 スポーツ指導者海外派遣事業

全国で活躍するスポーツ指導者の資質と指導力の向上、活動促進ならびに指導体制確立の一環として、ヨーロッパ方面(日程未定を訪れスポーツ組織の実態とその指導方法、活動プログラムの調査・体験を中心に研修を行う。

参加資格・27才以上の有資格者
派遣経費・個人負担30万円
(派遣人数は、全国で11名)

地域スポーツクラブ助成事業

国民のスポーツ振興を図る一環として、地域におけるスポーツク

ラブの指導者の活動費の一部を助成し、地域住民のスポーツ活動の活発化を図ることを目的とする。助成対象者は、有資格者、助成金額、24万円。助成期間、6月(翌年2月)。

山梨県スポーツ指導者協議会 会費支払い方法の変更について

山梨県スポーツ指導者協議会総会にて会則の変更が行なわれ、会費が4年に1度の登録時に、二千元となりました。登録時に登録料及び会費を合わせてお支払いいただくようお願いいたします。(なお、今年度登録の更新をして会費未払いの方は、財団法人山梨県体育協会までお支払いいただきますようお願い申し上げます。)